

市長就任記者会見 議事録

日 時 令和 7 年 4 月 21 日（月）14 時から 14 時 40 分まで **場 所** 特別会議室

出席報道機関 毎日新聞社、読売新聞、神戸新聞社、朝日新聞社、産経新聞

1 市長就任挨拶

土曜日から就任はしていますが、本日初登庁となりました森臨太郎です。改めましてよろしくお願い申し上げます。本日登庁してさっそく様々な部署を訪問してご挨拶をさせていただいたところです。宝塚市は財政危機を含め様々な課題が山積していますので、緊張感をもって仕事を開始しました。一方で、市民の皆さんとの開かれた市政といいますか、開かれたという言葉はあまり好きな言葉ではないのですが、むしろ市民の皆さんに宝塚市政を自分事として持ってもらうことが大切かなと思っています。なので、メディアの皆さんの役割が非常に重要かなと思っていますので、ぜひ一緒に色々な形で連携できればと思います。どうぞよろしくお願いします。

2 質疑応答

（記者）3点伺います。1点目、市長として初登庁した今の率直な気持ちについて。2点目、1期4年間で最優先で取り組まないといけない課題とその理由。3点目、宝塚という町をどのような町にしていきたいかをそれぞれお聞かせください

（市長）1点目、現実に様々な課題と対面して解決していくために、緊張感をもって対峙させていただくというのが今の率直な気持ちです。2点目、特に優先事項としてやっていきたいのは財政危機への対応です。財政に余裕がないと何もできないので、まずは整理をするところからかなと思います。その中で、課題が見えてくると思いますので。まずは今宝塚市政としてやっている事業をしっかり整理し、それによって財政難の状況を改善していくことが大きな目標です。もう1つは、市立病院の建て替えについて建て替えは決まっているが、今後どういう病院にするかを示したうえで着工することも優先事項かなと考えています。3点目、宝塚にとって文化というところは大きいと思いますが、選挙戦を行う中でも様々な市民の方から、宝塚は歌劇だけでないという声を多く聞きましたので、宝塚歌劇を中心とした文化の推進と同時に、宝塚のほかの魅力も出てくるような多様な側面での文化を花開かせるということかなと。西谷の里山風景や長尾連山、植木産業など緑の中に溢れる文化といった、歌劇だけではない様々な市民の皆さんが持つ文化というのがさらにグレードアップして花開いていくのがいいのかなと。これが、先ほどの優先順位の先にあることで、財政再

建の後に宝塚らしさを取り戻すことにつながると考えています

（記者）初登庁をして最初に行った仕事は何でしょうか

（市長）皆さんへの挨拶もそうですが、財政危機の中でどのようなところが整理できるのかという作業を水面下で始めていますので、これが実質的な仕事を開始しているという状況になります

（記者）具体的に、どの部門の事業の整理を始めるかといった考えは示されているのでしょうか

（市長）手始めに医療や福祉など私にとっての得意分野の所から手を付けていますが、市の全事業を見ていくという考えに変わりはありません

（記者）訓示でもお話しされていたように、正確なデータに基づいて精査するために、医療や福祉に関する正確なデータを取り寄せているという状況ですか

（市長）そうですね。例えば、近隣市区町村と比べてどうなのかということまで、近隣の市区町村と揃えることが目的ではないですが、それ以外にも様々な情報を収集しながら整理をしているのが現状です

（記者）既に取りかかっているのでしょうか

（市長）はい、取りかかっています

（記者）職員との対話も大事とお話しされていましたが、これまでの森市長の経験を生かした新しい職員との付き合い方は考えられているのでしょうか

（市長）会議やグループを形成するのは職員への負担になるかもしれないので、まだ始めてはいませんが、まずは一対一でのコミュニケーションである挨拶。もう1つは、もう少しフラットな関係性。上司と部下としての役割はあるにしても、フラットで平等な関係ということを全職員に認識してもらうことが人間同士の関係性としては大事なかなと思います。そのうえで、現実的にやっていくべき仕事が出てきたときに、ワーキング・グループなりを考えていきたい。特に、まだ形にはなっていませんが、希望としては、次長・課長級の実務を担当している職員がどう思っているのかは知りたいと思っています

（記者）市民参画においてデータに基づく政策立案を柱にすると訓示で述べられていましたが、具体的にどのような手法で取り入れていこうとお考えでしょうか

（市長）データに基づくというのは、ここまでがデータでこれ以上はデータではないという話ではなくて、より客観的で信頼度の高い情報を参考にしていくということが1つの指標としてあるのかなと考えています。市民参画については、市民の皆さんとの対話の場を定期的に設けていくことを計画しています。現実的に

どのような場になるのかは担当部署との調整になりますが、その検討は開始しました。また、対話の場だけではなく、SNS など様々なチャンネルでの情報発信も担当部署に考えてもらっていますし、情報発信だけでなくどのようにご意見を伺うかということも検討を始めています

（記者）市民参画については、対面に限らずいろいろな方法での参画を考えられているということですね

（市長）そうですね。もう1つ具体的にいうと、市立病院の方向性についておそらくワーキング・グループ的なものを立ち上げることになると思っているのですが、そういうところに市民なり患者さんの代表が入っていくことも1つの手法だと思っています

（記者）データに基づく政策立案について、市の職員のみでデータを収集するのか、場合によっては外部から専門家などを招く可能性もあるのか、現時点でのお考えをお聞かせください

（市長）外部から専門家を招くこともありえると思います。ただ、命題次第ではありませんので、まだ具体的に動き出しているわけではありません

（記者）山崎市政への評価をお聞かせください

（市長）以前までに残された課題を解決していこうとされたのは非常に大きな功績があったと考えています。特に大きく2つあって、1つは市立病院の建て替えについて道筋をつけられたということはご本人もおっしゃっていましたがその通りだと思います。もう1つはごみ処理場の問題について、資金繰りも含めて方向性を示したのは大きな功績だと思います。さらに、財政難の状況の中政策を進めるうえで、民間との連携は非常に重要になってくるとは思います。民間企業との連携協定に関して様々な形で実現されたことも大きな功績だと思っています

（記者）昨年12月に市議会が市に対して財政非常事態宣言の発令を求めているが、その件についてどのような見解をお持ちでしょうか

（市長）まだどの事業をどう整理するかという状況ですので、むしろ私自身はいくらあるから宣言するということではなくて、どれくらい解決が困難なものなのかによって宣言するかどうかを考えようと思っています。即座に宣言しますという話ではなくて、ちょっと精査させていただきたいというのが現状です

（記者）今年度の骨格予算について、森市長による肉付け予算への方針はすでにありますか

（市長）基本的には、肉付け予算の方針そのものは来年度予算に大きな関わりがあるの

かなと考えています。細かいところを詰めるのではなく、来年度予算でどうい
うところを削減できるのか、削減するとなるとそれは代替えの政策が必要にな
るのか、代替えが必要だとなると調査を開始しないといけなくなりますので、
逆算して肉付け予算を考えていこうかなと思っています

（記者）市立病院の建て替えについて、250 億円の寄附をされた方とお話しをされたこと
はありますか

（市長）選挙戦の始まる直前に時間をいただいて、思いを聞かせていただきました。私
も市立病院には非常に関心が高く、私自身が考えている市立病院の今後の在り
方は選挙戦で訴えてきましたので。1 つは、寄附された方の思いはどのような
ものだったのか。もう 1 つは、その思いと私の考える市立病院の方向性が合致
するかどうかについて、お話しする機会がありましたので確かめさせていただきました

（記者）その思いと方向性が合致した部分は、どんなところになるのでしょうか

（市長）特に寄附者の方が強調されたのは福祉についてです。具体的に言うと、障害者
の方にとってもハードルが低い病院であってほしいと仰っていましたし、市立
病院が公的な病院として継続していくことも願いとしてお話しされていまし
た。結果的には、私が訴えていた医療、福祉、介護といった分野をネットワー
ク化しながら、特に市の施設としても経営統合して、より統合化された中での
サービスの提供ということに関しては非常に共鳴されていました

（記者）では、市立病院の建て替えにあたっては、寄附者の思いを酌んで進めていくと
いうことでしょうか

（市長）思いを酌んでというと語弊があるのですが、言ってしまうと一市民の方ではあ
りますから。当然協定に沿った形で、むしろ 1 人 2 人の市民ではなく、全市民
の皆さんが病院にどう願うのかということではありますが、今回の選挙で負託
をいただいたということを考えると、それぞれの思いがある意味ほぼ一致して
いるのかなという意味ではその思いを遂げるためというだけではなく、今後の
方向性としては合意できるものかなと思っています

（記者）市長選出馬時の会見で、市長報酬の還元を示されましたがどのように進められ
るのでしょうか

（市長）進める予定ですが、条例改正が必要になりますので、今手続きを整理してい
るところです。議会の皆さんの賛同をいただかないといけませんが、基本的には
半分の報酬という方向性で今調整しています。用途は、財政規律がしっかりと
用途が立つということが目標になっていますので、それまでは 50% のまま行
こうと思っています。基本的には、副市長以下の給料を触ることはなく、私 1

人でそれを継続しようと思っています

(記者) 当選証書を受け取った際に、選挙戦を戦った他陣営と話し合いをしたいと仰っていましたが、これは既に実現されたのでしょうか

(市長) ご挨拶には伺えましたが、まだ1週間しか経っていないので私自身の支援者ともあまりお話をできていない状況です。これからすべての陣営の皆さんを含めて、それから市民の皆さんとの対話の場ってというのはその中にいろんな陣営を応援された方も含まれますので、そういう輪の対話という形で進めていこうかなと考えています。現実的にどういう形になるかは調整しているところですが、各会派の皆さんともう少し突っ込んだお話をできればと思っています

(記者) 宝塚では2015年8月を最後に宝塚観光花火大会の開催は見送られています、夏の花火に関連するようなイベントを開催するといった考えはありますか

(市長) 花火大会は宝塚にとって大事な存在ではあったので、復活してほしいというご意見はたくさんいただいているので思いはよくわかります。一方で、財政再建をしている中で、市民の皆さんの賛同は得にくいのかなと思っています。もう1つ考えないといけないのは、条例等が変わって近隣の騒音や警備の問題などでいま簡単に花火大会ができない形になっていますので、そこを整理しながら、あるいは時代的に違う形ということもあり得ると思いますので、オープンに検討はしていてもいいのかなと。すぐに復活というわけではないですが、財政を整理していく時間の中で、その先を話し合っていこうかなと思います

(記者) まったくないというわけではないということですね

(市長) そうですね

(記者) 初登庁し、市長の椅子に座られた時の気持ちを教えてください

(市長) あまり特別な意識はなかったんですね。国連職員として働いていたときから、市長さんとはたくさんお付き合いもありましたのであまり特別な存在ではなかったということもありますが、特別な意識はありませんでした。むしろ課題が山積している宝塚をどうしたらいいのかなということで頭がいっぱいでした。正しいプロセスといいますか、客観的な情報に基づくこととか、市民の皆さんと一緒にやることという、手法のことと課題のことですね、財政難だとかその裏にあるさまざまな残された課題もありますので、そういうことを考えると難しい市政運営が求められているので、そっちのほうで頭がいっぱいというのが正直なところです

(記者) 課題解決のために市民がいる場に出向いて、自らの政策を進めたいというお考えだと思うのですが、そういう意味では市長の椅子に座っている時間はほとん

どないのではと思いますがいかがでしょうか

(市長) そうかもしれないですね。多くの時間が市民の皆さんとお話すること、あるいは職員と対話をするに自分の時間が使われていくのかなと思ってます。ただ、市長の仕事をしたことがないので、どこまで市長の椅子に座れるかわかりませんが、正直なところ市長の椅子に座る時間は最小限でいいのかなと思っています

(記者) 副市長人事について、ジェンダーバランスを考慮して女性副市長を1名登用するということもあるかと思います。可能な限りでいいので腹の内を教えてくださいませんか

(市長) 立候補の際に記者さんからの質問に対して、福祉の予算はできるだけ削りたくないとお話ししましたが、要するにそれは福祉の予算を削りませんという意味ではないということと同じで、ジェンダーバランスを追求していくことが理想論としてある中で、一方で現実的にどうなのかというのはいろいろな要素が絡んでくるので、必ずしも次女性が入りますというわけでもないのかなと。最終的な形として、ジェンダーバランスが配慮された形になるのが追及していく方向なのかなと思っています。形として男女があるというだけではなくて、様々な多様な皆さんが含まれた形で市政が運営されていくことのほうが健康的だろうと思っていますので。ただ、市政とは現実から始めないといけませんので、形をこだわりすぎるがために上手くいかないということも違うと思いますので、着地点がどの辺になるかは決まってもいないので、理想論として申し上げましたが、それが約束した話でもないともっています。ただ、現実的に早く決めていかないといけない話なので、いずれ皆さんの前には見えてくるかと思っています

(記者) 副市長に登用すべき人が森市長の頭の中には見えているのでしょうか

(市長) ある程度は見えていますが、数週間後どうなのか、数か月後どうなのか、数年後どうなのかっていう中で私は形があるので、皆さんに見える姿っていうのがその時々で違ってくる可能性はあります

(記者) 当選後にその方に接触されましたか

(市長) 接触はしています

(記者) 選挙期間中に応援に来られた方から、森さんに国会議員に立候補してもらおうと思ったのという話があったのですが、そういった誘いを受けたのは事実でしょうか

(市長) はい、複数回ありました

（記者）その中で、なぜ国会議員ではなく、地方自治体の首長を選ばれたのでしょうか
（市長）地方自治体の首長というわけではなく、むしろ宝塚市を預かりたいという思いが強いです。私が長く政策にかかわる中で、どこの国であれどこの地域であれ大切にしてきたのは、住民の皆さんに裨益する政策が一番大事なのかなと思っていました。特に昨今の巨大潮流の中で、より住民の皆さんに裨益する政策の価値が高まっていると思っています。本来の民主主義の在り方として、自分の住んでいる周りからそれが改善されていくというのは本来の形だと思いますので、自分が政治家になりたいから、有名になりたいからというわけではなく、自分の身の回りから自分が何かできることをとということが、私としては大切にしていることなので、私にとっては今の日本が変わるという意味でも、目の前の住民の皆さんにとって大切な政策やその政策のミックスを作っていくことがある意味将来の日本の在り方も変えていこうという思いもあるので、それ以外の選択肢はありませんでした

（記者）今回の選挙戦を通じて、森さん以外の方に投票された方も相当数いらっしゃると思います。その方々との対話について、先ほどおっしゃられていた市民との対話の場の中に組み込まれていくという解釈でよろしいでしょうか
（市長）支援者かどうかは関係なく、すべての市民の皆さんが参加して、その皆さんと対話していく中で政策を作っていくというのが1つの枠組みです。もう1つは、直接的に様々な候補ということであれば、それぞれの候補を応援していた市議団の皆さん、その会派の皆さんと対話をしていくことがもう1つの形になるのかなと思っています

以上